

校友会報

第88号

令和7年3月1日

INDEX

●ごあいさつ	2
●令和6年度通常総会について	3
●第41回「母校を訪ねる会」を開催	3
●母校を訪ねる会の様子	4
●廣川友雄先生の思い出	9
●工学部校友と学生の交流会「テクミーツ」開催	10
●校友起業家	11
●支部活動報告	12
●校友会NEWS	15
●寄稿	16
●哀悼 太田雄八郎元会長	17

●哀悼 加藤木研元会長	17
●哀悼 古橋栄吉氏	17
●日本大学工学部が推進する産学官連携活動(8)	18
●校友レポート	20
●若葉マーク	23
●学術研究報告会	23
●令和7年度通常総会通知	24
●第42回母校を訪ねる会	24



表紙のQRコードをスマートフォンで読み取ると、校友会のホームページ(校友会について・ニュース・校友会便り・校友会報等)をご覧いただけます。

ごあいさつ



校友会会長 城座 隆夫

校友の皆様におかれましては、益々ご健勝ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は校友会活動に対しましてご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

「校友会報」も本号で88号となりました。年に一度の発刊ではありますが、校友会活動を皆様にお知らせする貴重な機会でありますので、ご一読お願い申し上げます。

令和6年4月20日に行われました通常総会では例年の予算組みに加え北桜祭や母校を訪ねる会、学生生活や課外活動、就職支援などを充実させると共に事務経費の削減をご承認頂きました。

また10月19日(土)・20日(日)の2日間行われました北桜祭は、各サークルによる展示や模擬店・音楽祭や芸能祭ほかたくさん企画があり、天候にも恵まれて盛大に行われました。

20日の「母校を訪ねる会」は卒業10年ごとの校友を招いて行いましたが、今年度から卒業55年・60年の校友も招待したところ、この二期で約40名、全体では約160名の参加を頂きました。会場内では「まぐろの解体ショー」で振舞われた刺身や卒業生が作る「クラフトビール」の提供などで盛り上がる中、久しぶりに再会した校友との歓談が行われ、お茶の接待・キャンパス散歩ツアーも多数参加されて盛会に終わったことをご報告すると共にご尽力頂いた関係各位に対しまして感謝申し上げます。

校友会は校友の再会と新しい出会いの場を企画し、学生への支援をすることが基本と考え、校友の絆をより深く強くすることにより、母校への寄与も充実できると思っております。

ご存知の通り少子化の厳しい状況の中、学部の発展は優秀な学生の確保です。

各地域支部活動の支援をはじめ、高校教諭の校友との連携で入学志願者の確保、卒業生の就職先の斡旋などにより学生の入り口から出口までをサポートしております。

我々ができることは母校の誇りを持って社会で活躍し、母校愛を持って絆を深めていくことではないかと思っております。

最後に校友の皆様のご健勝ご活躍を祈念し、今後も工学部校友会に対して変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



工学部長 根本 修克

令和7年の早春を迎え、校友の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日本大学におけます近年の一連の不祥事ならびに法人本部執行部における混乱によりまして、日本大学工学部校友会の皆様にも多大なご心配とご迷惑をおかけいたしておりますことに改めまして深くお詫び申し上げます。

その一方で、令和6年4月からは大貫進一郎新学長ならびに林真理子理事長のもとで、本学のすべてのステークホルダーの皆様からの信頼回復のために、工学部教職員は一丸となり、従来通り、一人一人の学生に真摯かつ誠実に向き合い、学生の教育・研究および生活のサポートにひたむきにあたっているところでございますので、校友の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、工学部では、20年以上にわたり、「ロハス工学」を基盤とする研究活動を行って参りました。令和2年に立ち上げたロハス工学センターにおきまして、教職員のみならず学生の意見も取り入れながら議論を重ね、「ロハス工学」を体感できる新しい研究施設である「ロハスの森」ホールを建造することができました。今後も、キャンパス内の「ロハスの森」と命名した一画の整備を進めていく予定であり、ロハス工学センターを基盤とした研究活動をさらに充実させ、工学部の研究基盤となる「ロハス工学」に関わる研究成果を広く社会に発信して参ります。

一方、令和6年10月には、北桜祭および母校を訪ねる会をコロナ禍以前と変わらぬ形式で開催いたしました。北桜祭を始めとする工学部の行事に工学部校友会から多大なご支援を頂いておりますことにも改めまして厚く御礼申し上げます。今後も、活発な人的交流を行える機会を設けて参りますので、工学部校友会の皆様にも引き続きご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

結びに、自然災害やコロナ禍などの度重なる苦難を工学部が乗り越えてくることができましたのも、日本大学本部校友会ならびに工学部校友会および他学部校友会、校友会各支部を通しての校友の皆様からの多大なるご支援の賜と衷心より感謝申し上げ、校友の皆様のご健勝とご活躍ならびに工学部校友会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

令和6年度第66回通常総会



令和6年4月20日(土)、第66回目となる令和6年度通常総会が開催されました。議長に永田正一郎氏(土21)、議事録署名人に山根庸夫氏(電37)、書記に村井健一氏(土29)をそれぞれ選出し議事が開始されました。続いて田村賢一総務委員長(機30)及び柳沼由美子財務委員長(化30)より行われました報告事項・承認事項並びに議案事項は賛成多数で可決されました。

また、本年は校友会功労賞表彰の年にあたり、長年、校友会活動にご尽力いただいた8名(別表)をご紹介されました。受賞者代表として佐藤光正氏(機9)に表彰状並びに記念品が授与されました。

総会終了後、来賓をお招きして懇親会が開催されまし



た。応援団OBによる演舞も披露され始終和やかな雰囲気での閉会となりました。

当会合は校友同士の親睦を深めることはもとより、仕事面での情報交換にもつながる側面もございます。今後も多数の皆様のご参加をお待ち申し上げております。

功労賞受賞者

(敬称略)

本 部	木村 圭二	建3	会長を歴任
	佐藤 光正	機9	//
	土方 吉雄	建23	幹事長を歴任
関 東	盛武 建二	土17	支部長を歴任
北 陸	山本 久	土31	//
東東海	水野 晴久	土22	副支部長を歴任
東 海	市川三千男	建17	支部長を歴任
四 国	藪内 清二	建33	事務局長を歴任

第41回「母校を訪ねる会」を開催



令和6年10月20日(日)、第41回目となる母校を訪ねる会が開催されました。今回より新たな対象学年に「卒業後55年・60年」の皆様も加えて、総勢で160名ほどのご参加をいただきました。

当日ご参加いただきました皆様は旧友との親睦を深めることはもとより、キャンパス散歩ツアーに参加して様変わりしたキャンパス内を探索するなど、往年の母校を懐かしんでいかれた様子でした。また今回、校友の渡辺潤氏(機55)にご協力いただき、懇親会場にて玉川村のクラフトビール「あぶくまビール」を来場者に振舞っていただくなど新たな企画も付け加えました。そのおかげもあり、母校を訪ねる会自体も概ね好評いただけたようです。当会としても大変喜ばしい限りであります。

今後も校友と母校とをつなげる会として続けて参りたいと思います。お一人での参加も当会役員で対応致します。奮ってのご参加、お待ちしております。



母校を訪ねる会



第12・17回卒 集合写真



第22回卒 集合写真

母校を訪ねる会



第32・42・52・62回・非該当年卒 集合写真

應 援 團



高柳 朗さん、白石慧太郎 第63代応援団團長(生命68回)、永田 直史 応援団監督(機械29回)



「母校を訪ねる会」に参加して

第66代応援団團長 高柳 朗 (建築71回卒)

私は日本大学工学部を卒業し、まもなく2年になります。現役を過ぎても「母校を訪ねる会」に携わることができ、とてもうれしく思います。「母校を訪ねる会」に参加したことで、日本大学の学生のつながりの強さを実感しました。卒業してから十数年、数十年経ってもまた母校で当時の仲間と集まることが、日本大学卒業生の結束力の強さを表していると私は考えます。そして、卒業生の先輩方の前で現役の時と同じように応援団として校歌・演舞を披露したことで、私も日本大学を卒業した一人であると改めて実感しました。また、校歌披露の際に、先輩方が校歌を覚えていることも日本大学への思いの強さを感じる一因となりました。私は「母校を訪ねる会」に参加したことで、日本大学のつながりの強さを実感しました。

そして、卒業生が集まる行事に参加し、演舞披露ができることの楽しさを感じ、またこのように行事に携わりたいと思いました。

校 友 茶 会



左から 情報1年 町田 尚輝/電電1年 宗像 歩実/建築4年 上原 葵
情報4年 阿久津敦弘/情報2年 安倍 友真

宗像 歩実 (電電1年)

今回、日本大学工学部校友茶会に4名の学生と共に参加させていただきました。初めて参加させていただいたのでとても緊張しましたが、皆さんが優しく丁寧に指導してくださったおかげで緊張もほぐれ、安心して楽しく参加することができました。また、茶会をするにあたってマナーや作法が分からなかったのですが、一つ一つ丁寧

に教えてくださったおかげで新たな知識を身に付けることができ、さらに初めて抹茶をいただくという貴重な経験ができました。初めていただいた抹茶は、思っていたよりも苦くなくて、とても飲みやすく美味しかったです。日本大学工学部は歴史がある大学ということは知っていましたが、こんなに多くの卒業生の方々と交流ができると思っていなかったの、改めて日本大学の規模の大きさや校友の深さ、人とのつながりの大切さを知りました。これからは、この大学での交流を深めていき、人とのつながりを大切にして自分の成長につなげたいと思います。



キャンパス散歩ツアー報告

学部祭連携企画「校友会キャンパス散歩ツアー」ガイドを体験して

原田 修 (情報4年)



左から 情報4年 宗像恒太郎、原田 修、
修士2年 磯貝 聖輝

「校友会キャンパス散歩ツアー」のガイドを情報工学科の2人と体験して、OB・OGの方々から、現在と過去のキャンパスの違い

や、過去に起こった出来事について貴重なお話を伺うことができました。その中で、当時の学生生活やキャンパスの様子がどのようなであったかを知り、時代とともに変化する大学の魅力を再認識しました。また、校友の皆様との交流を通じて、日本大学工学部の伝統や歴史を身近に感じ、世代を超えたつながりを深めることができたことは、非常に楽しく、貴重な経験でした。将来的には、私自身も日本大学工学部を卒業した後、校友として校友会キャンパス散歩ツアーに参加し、未来の日本大学工学部生と交流を持ち、後輩たちに母校の良さや思い出を伝えることで、次世代とのつながりを築いていきたいと考えています。



土木工学科: ロハスのトイレ



建築学科:鉄筋コンクリート(RC) 構造・材料研究室



70号館9F展望フロア



電気電子工学科人間支援システム研究室



ロハスの森(ホール)



校史資料室



70号館7F 日本機械学会 新☆エネルギーコンテスト

母校を訪ねる会に参加して



澄んだ秋空の下、母校への回帰
小林 秀明 (土木42回卒)

澄んだ東北の秋空の下、約30年ぶりに母校である工学部を訪れた。冷たくも清々しい風が頬を撫で、秋の深まりを肌で感じる。その日は北桜祭が開催されており、キャンパスには賑やかな雰囲気と懐かしい熱気が満ちていた。胸の高鳴りが、遠い学生時代の記憶を呼び覚ました。キャンパスに足を踏み入ると、昔ながらの建物と新校舎が並び立ち、時の流れを感じさせた。過去と未来が融合したその光景は、変わらない母校の温かさと、新たな時代の息吹を同時に伝えてくれた。

郡山駅には、事前に連絡を取っていた教え子が迎えに来てくれた。高校教員時代に教えた彼が、今では私の母校で学んでいる。彼と共に歩くキャンパスは、まるで時を越えて当時の自分と向き合っているようで、不思議な感慨と誇らしさに包まれた。教え子が「後輩」になった瞬間は、教育者として何より嬉しいものだった。さらに驚いたことに、私がかつて受講した教員の講義を、彼も受けていると知ったとき、時代を超えた学びのつながりに胸が熱くなった。

今回は、残念ながら当時の学科の同期には誰とも会えなかった。親しくしていた友人が前日にキャンパス見学に訪れていたと知り、まさかのニアミスに驚きと残念さがこみ上げた。それでも、友人たちも母校を訪れていることが分かっただけで、心は温かくなった。会では他学科の同期と再会することができ、お互い進んだ道は違えど、それぞれが懸命に歩んできた時間が、語り合う中で静かに輝いていた。学生時代に描いた夢や情熱が、今もそれぞれの人生に息づいていることを実感し、当時と変わらぬ絆を感じた。

この30年間、私は教育や研究の道を歩んできた。そのすべての基盤は、母校で学んだ日々にある。教え子が同じキャンパスで学ぶ姿に、学びのバトンが次世代へと確実に引き継がれていると感じ、未来への希望が湧いてきた。

北桜祭の賑わいと秋の澄んだ空気に包まれた母校は、思い出の場所であると同時に、新たなつながりや発見をもたらす場所でもあった。次回はもっと多くの仲間たちと再会し、それぞれの歩みを語り合いたい。そして、母校とそこに集う人々への感謝を胸に、新たな一歩を踏み出そうと決意した。

母校を訪ねる会に参加して

酒井 萃 (建築22回卒)

卒業して50年の節目に参加させていただき、校友会役員の皆様のおかげで、楽しい会に出席でき感謝しております。

本当にありがとうございました。(安い会費にしては豪華な食事まで準備していただき恐縮しておりますが！)

54年前の工学部に入学するような、わくわく気分です。



内も見学できましたが、僕らの在学したころの学舎は図書館棟しかなく、やはり年月を感じその変貌ぶりは驚きとともに、確実に発展する母校の逞しさを感じさせるものでした。

しかし正門からの大通り沿いの桜並木は懐かしく残っていて、楽しい思い出がよみがえり、学園祭の様子や学生の振る舞いを見ると、あの当時にタイムスリップしたような気分になりました。

8月ごろ校友会事務局から母校を訪ねる会の案内を頂き、卒業以来会ってない仲間数人に連絡を取ったら、体調不良とかいろいろ難しいことを、言い訳するので、俺は郡山から千二百キロの奄美大島から行くんだから無理しても出席しようかと説得し、富山の喜多本進君、千葉の柴田敏紀君が出席できたことが、嬉しかったです。

又、懇親会場では、同期の崎山佑典君や建築17回卒の市川三千男先輩やたくさんのお客さんと会うことができ、50年ぶりの再会もあって、思い出話に時間が足りないのが少し寂しかったです。

その会が終わった後、同級3名で柴田君の日光の別荘に行くことになり、観光と昔話で盛り上がり、とても楽しく愉快なひと時を過ごせた事は大切な思い出となりました。

又その4日後に、訪ねる会に来ていた市川先輩がひょっこり奄美に来られて、私の事務所の事や観光もちよっとし、一泊で帰られたことが少し心残りでした。

私は、鹿児島から500キロ南の奄美大島の出身で、現在もここ奄美で設計事務所を開いております、まだ現役(実際は息子がメインだが)でかじりついています。(ボケ防止の為)

今後10年後に母校を訪ねる会に参加できるようキバルつもりです！またお会いしましょう。

最後に、このような機会を設けて頂いた日本大学工学部と校友会の役員の皆様に改めて感謝申し上げます。

ここ奄美は1月半ばからヒカン桜が咲きました。その桜と学内で撮ったスナップ写真を添付します。



母校を訪ねる会に参加して

母校を訪ねる会に参加して

亀谷 透 (機械12回卒)

昭和35年4月初めて郡山キャンパスに来た時、うっそうとした雑木林の中にぽつぽつと点在する薄汚れた木造の校舎と、我が住居となる北心寮の古色蒼然な建屋を見て、これは大変な所に来てしまったとしばし落ち込んだことを思い出す。

今回母校を訪ねて、緑豊かな環境の中に近代的なデザインの校舎が数多く配置されているのを眺め、学生たちの元気な姿を見た時、入学当時を思い出して感慨深かった。今回機械科の参加者は8名。これはこの機会に同窓会も郡山でやろうと幹事の皆さんが企画して、会員に声をかけてくれたためである。

機械科39年卒は昭和42年に東京の国際ホテルで第1回の同窓会を開き、以来箱根、伊東、飯坂温泉など、各地のホテルで開催したほか、東京近郷の会員だけでの懇親会や幹事会も何度も開催している。会の名称は三九会という。今回は第17回目の同窓会で郡山市のホテルバーデンだった。大阪、愛知、静岡など遠方からも参加があり、あそこが痛い、ここが悪いとお決まりの病氣自慢の後は現況報告。まだ現役で頑張っている猛者もいるし、毎週テニスを欠かさない元気者もいた。私は船橋市時活村というNPO法人に参加して、名所巡り、撮影会、料理教室、落語鑑賞、大人の塗り絵、カラオケなどいろいろなイベントに参加し、毎日楽しく充実して過ごしている。3年前伴侶を亡くして独り暮らしになってしまったが、時活村の仲間達との出会いで、寂しさを乗り越えて自分の居場所を見つけることができたのは幸運だった。

我が三九会が長く続いているのは、橋本寿幹事長、小山泰事務局長のほか日向正博、勝間田貞美、高木明信幹事等の熱心なボランティアによるもので、皆さんのご尽力に心から感謝している。

数年前からのさまざまな不祥事にもかかわらず、凜として学業に、研究に、地域への貢献に努力されている日大工学部の現状を、母校を訪ねる会で実際に体感できたことは誠に嬉しい限り。これからも益々の活躍を期待したい。そして訪ねる会を企画された校友会の諸兄に、心から感謝する次第である。10年後また呼んでもらえるかな。



母校を訪ねる会に参加して

梶野 政隆 (電気17回卒)

令和6年10月20日(日)第41回母校を訪ねる会にご招待いただきまして有難うございました。私は卒業後10年、20年、30年、40年、53年、55年と参加させて頂きました。

昭和40年4月、日本大学第二工学部(福島県田村郡田村町大字徳定字中河原1番地)へ入学し俊英学寮へ入寮い



たしました。

当時はRC造りの建物(1号館、2号館)も少なく、講堂(55号講堂)や食堂、研究室は木造造りやブロック造りでした。海軍の跡地を利用したものと思われる。敷地内には小川が流れ、ニセアカシアの木々が並んでいました。グライダー部の滑走路や自動車部の練習所が大きく取ってありました。

俊英学寮の手前には小高い盛土、北心寮の基礎跡、又、旧阿武隈川巾着池がありました。工学部敷地の南側には田んぼが広がり、春には青ガエルを食べにまむしが居て、まむしを取ってくるように依頼されました。又、秋にはイナゴが稲を食べに来て、たくさん取って来るよう依頼されました。懐かしい思い出です。

10年後に訪問した頃には図書館や食堂、体育館が建ち現代的な大学へと変貌しておりました。更に今回訪問した折には浦島太郎の心境でした。

さてここで俊英学寮の思い出を記しておきます。入寮して1週間程度たつと、団体生活を送るため、簡単な寮則があり面接と称して夜中まで規則や挨拶の仕方、先輩に対する接し方等、みっちりたたき込まれました。寮費は3食を食べさせて頂いて7,000円でした。行事としては4月中旬頃から校歌、応援歌の練習があり、大きな声で歌っているか確認されました。5月連休後には日帰りバスハイクへ連れて行っていただきました。(費用は工学部負担)守山方面へは鍋、釜を持って芋煮会が開催されました。法定伝染病の赤痢菌による集団赤痢も発生いたしました。寮生230名の半数ぐらいの人が強制入院させられました。私は寮に留まっておりました。

学部祭(10月)の一環として寮歌も開催されました。近所の造り酒屋から樽酒も届きました。ニセアカシアの木を伐採してファイヤーストームも楽しみました。卒業を控え4年生になると衝撃の日大紛争が勃発いたしました。卒業後、私は日特金属工業(株)の動力課に入社し(現在は住友重機械(株)特高変電所の管理、各工場の高圧、低圧電気設備の保守、管理の仕事に従事しました。2年勤め梶野電機(株)へ入社し、50数年電気工事を施工し現在に至っております。現役電気工事士です。

卒業40年を振り返って

堀 豊 (工化32回卒)

学部3年生時、片山将道先生の高分子化学の講義に興味を持ち、卒業研究室は有機材料研究室で、大学院高分子ゼミ聴講の機会をいただきました。博士前期課程に進学、武者義彦先

廣川友雄先生の思い出

杉 修介（機械22回卒）

自分が30数歳の時のことですが、「君の趣味である地方史研究を掘り下げて、仕事につなげたらどうかね!」というお言葉を廣川先生からいただきました。当時、私はまだ将来に迷っていた時期でもあります。正直言って、この一言には「ドキッ!」としました。

廣川先生には、私が在学中に「応用物理研究会」というクラブ活動を通じて、また学業等多方面にわたり、ご心配をおかけしたうえにクラブOB会に際して、近況などの報告で先輩・諸氏との交流の機会をいただきました。このように在学中や社会に出た後も適宜ご指導を賜り、ほんとうに有難い経験をさせていただいたと、大変感謝をしています。

私の趣味である「地方史研究」は、今の山口県の中世時代における守護大名であった「大内氏」と奉行人の研究に関するものです。この話を熱っぽく廣川先生にお話したことがあります。これを覚えていてくださって「人生の道は一つだけではないぞ」ということを示唆されたような気がします。

今更ながら思いますと、廣川先生の人材養育の起点がここにあるように思われます。幅広くグローバルな見方をされる大恩師でもあり、在学中よりも社会に出た後のほうが、むしろお世話になったのではないかと思います。

私はその後、仕事の都合で製鉄所のプラント建設の一端で台湾に長期出張する機会があり、現地の新聞を読むにつれて「漢文慣れ」とでもいいますか、おかげで活字化された日本の古文書が、ある程度解読できるようになりました。これが現在、歴史講演や著書の執筆に大きく役だっています。

また国内の出張などで郡山を通過する時には、必ず立ち寄り、廣川先生に連絡してごあいさつを申し上げます。当時先生は、2回目の工学部長を歴任され、大変ご多忙中にもかかわらず、逐次お話しする時間をいただき、至極感謝致しましたことを思い出します。

一見して工学と歴史は全く別物であると見られがちですが、工学にも先人による苦勞の歴史があり、今と昔では手段こそ異なりますが、見方・考え方は今も昔も同じです。

私は既に定年前から、広島と山口で歴史講演やイベント・著作を行っています。一時期コロナ禍で活動の制限を強いられたこともありましたが先生を手本に、これらに負けずグローバルな研究・調査を目標としています。終りに衷心より先生のご冥福をお祈り申し上げると共に、母校の益々なるご発展を祈念致します。

生、佐藤良和先生にご指導いただきました。大学院の時代はブラジル国よりの留学生との共同研究、卒業研究生の指導、東北工業高校での非常勤講師、中国研修旅行などいろいろな経験をさせていただきました。毎年春の開成山での花見会、秋の芋煮会、冬の磐梯山スキー、平栗下宿での6年間の共同生活はかけがえのない青春の思い出です。片山先生は企業出身の方でゼミ講義の中で企業での製品開発の話をされ、自分も世の中にある新製品を開発し社会貢献したいとの思いで愛知県の化学メーカーに就職しました。

社会人1年目に、一生今の会社でやっていくのかと悩んでいたころ、片山先生から手紙をいただきました。手紙には自分も若い頃、会社を作って社長になってやろうかと考えたり、転職を考えたり、転任を運動してみたりバタバタしたことがあるが、今から考えてみると自分の気持ちなど小さなもので、自分以外のところで時代が大きく変わってゆく。時代の変化に耐える実力、時代を先取りする才覚は、お勉強だけでは無理で毎日の苦勞の積み重ね以外に作る方法はない。10年くらいのスパンで考え、技術的な総説が書けるようになること、また技術士を目標とするのもよい。期待していると書かれていました。この年に技術士一次試験を受験して技術士補となり、2010年より技術士（化学部門）としての活動を行っています。思い出に残る出来事として技術士補1年目の技術士懇親会で白髪のベテラン技術士より声をかけられ、これからは若い人が活躍し頑張ってくださいと言われました。機械部門技術士で鉛筆1本、機械スケッチを書き技術士事務所を営んでいるとのことを知らされ、よほどの見識がないとできないことだと感心し自分もそうなりたと思いました。

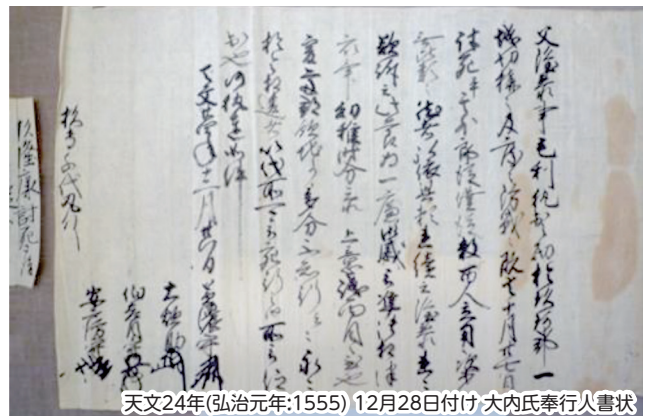
勤務会社では入社以来、27年間研究開発部門に所属し0から1を創るテーマあるいは誰もがあきらめてできなそうにない難題を引き受け取り組んできました。修羅場も幾度か経験しましたが好きこそ物の上手なれ、上司の理解と仲間のおかげで特許出願も累積90件近くしました。1988年、有害なアスベストを含まない不燃壁面板を発明製品化し、20年の時を経て業界標準製品に育てあげてきたことと、その過程で会社のコアとなる後輩が育ったことはたいへん喜ばしいです。日刊工業新聞2024年12月11日(水)朝刊5面記事「レジェンドに聞く」に掲載されました。Web「インタビュー」版：<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00733763>

でもみることができます。現在は嘱託で、品質保証部に安全、化学物質管理、環境、海外法令業務を担っています。

プライベートでは地域の社会貢献活動として市民講座「みえテクノロジーカフェ」を主催しています。詳細はXにて#テクノロジーカフェを検索してください。

また2023年6月よりロハスの精神にもとづき市民農園を開園しました。Instagramにて虹畑農園をご覧ください。https://www.instagram.com/r5mie_niji/

今後ロハスの精神にもとづき、さらなる社会貢献と生涯現役プロフェSSIONナルを目指し取り組んでゆきたいと考えています。



工学部起業サークルが工学部校友と学生の交流会「テクミーツ」開催

2024年1月11日、福島県内の優れたベンチャー起業家をたたえる「ふくしまベンチャーアワード2023」で東邦銀行賞、グロウイングクラウド賞に輝いた工学部起業サークル（会長 菅原由騎さん：電気電子工学科3年）が、2024年4月、6月、12月の3回にわたり大学正門南側の郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターにおいて、のべ13名の校友を招き、のべ参加学生約50名と校友の交流会である「テクミーツ」を開催しました。起業サークル顧問として中野和典先生（土木工学科）、高梨宏之先生（電気電子工学科：就職指導委員会副委員長）が、校友会（後援）からも城座会長が来賓として出席されました。イベントはゲスト校友の各プロフィールスピーチ、参加者同士の名刺交換タイムに続いて、メインのグループディスカッションでは、4～5グループに分かれ、ゲスト校友と参加学生がワールドカフェ方式ディスカッションの順で進められました。また、第3回では、学生のスピーチコーナーが設けられ、機械工学科3年の佐藤圭さんがロボットコンテストへの挑戦について熱く語りました。次年度も校友会は継続しての後援予定です。（事務局記）



テクミーツを開催して

起業サークル会長

菅原 由騎（電電3年）

テクミーツは、学生が多種多様な卒業生と直接交流することで、実社会でのキャリア形成に関する知見を深めることができる貴重な機会を提供する交流会です。大学生活では、学業や研究に励む一方で、将来のキャリアについて具体的なイメージを持つことが難しい場面も多くあります。テクミーツでは、各学科の卒業生をゲストとして迎え、社会での実体験を基にしたアドバイスを受けることができます。これにより、在校生は自身の進路選択に役立つ情報を得るだけでなく、卒業生との人脈を築くことが可能となります。

テクミーツの最大の特徴は、単なる講演会形式ではなく、卒業生と在学生在が双方向で意見交換できる環境を整えている点にあります。先輩方が自身のキャリアにおいてどのような決断をしてきたのか、成功の秘訣や壁に直面した際の乗り越え方など、リアルな体験談を共有してもらいます。また、在校生からの質問にも直接応じてもらうことで、より実践的で具体的なアドバイスを得ることができます。このような場を通じて、在学生在が社会に出る前に現場のリアルな声を知り、自らのキャリアプランをより具体的に描くことを目的としています。

最初のテクミーツでは、特に起業家として活躍する4名の先輩をゲストとしてお招きしました。起業という道を選んだ先輩方から、事業を立ち上げる際の苦労や成功のカギ、そして挑戦の中で得た教訓など、貴重な話を直接聞くことができました。起業に興味のある学生にとってはもちろんのこと、将来的にビジネスに携わりたいと考えている学生にとっても、大変有意義な機会となりました。毎回参加者アンケートをとりましたが、在生からは毎回全員が「参加して良かった」と回答してくれました。

来年度のテクミーツはさらに進化させようと考えております。本学の学祖である山田顕義の出身塾である「松下村塾」に習って、校友をゲストとして招くだけでなく、在生とともに学び合える「塾」として役割を担っていこうと思います。

開催にあたり、テクミーツの実現に向けてご尽力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。貴重なお時間を割いてご協力くださった卒業生の皆様、テクミーツ立ち上げのときに尽力していただいた高坂玲音さん（院生）、そして積極的に参加し、熱心に学びを深めてくれた在生の方々の皆様のおかげで、テクミーツは大きな意義を持つ場となりました。皆様のご支援とご協力があったからこそ、テクミーツが実現し、より良い学びの場として成長を続けることができます。今後も、学生と卒業生が共に学び合い、成長し続ける場を提供できるよう努めてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



機械工学ものづくり工房

ステナブルロボット部会

(ロボコンプロジェクト)・

演劇部・ワンダーフォーゲル部・

サイクリング部・音響研究会・

赤十字奉仕団

佐藤 圭（機械3年）

ドラえもんや3DCGが好きです。北桜祭の仮装大会には「チェーンソーマン」のコスプレで出場しました。

機械工学ものづくり工房サステナブルロボット部会として、知能ロボットコンテスト・フェスティバル2023第35回知能ロボットコンテストに出場、3位入賞しました。レスキューロボットコンテストでの入賞等も目指しています。また、今後の目標として、大学院進学、アニメトロニクスロボットの制作、コスプレやものづくりを考えています。将来の夢としてはドラえもんのような人に寄り添ったロボットを作りたいと思っています。

●テクミーツゲスト校友のみなさん、ご協力ありがとうございました。

(順不同)

電気35回 齋藤 和正	工化36回 薄井 長広
機械49回 岡村 慶佑	情報23回 佐藤 直希
機械54回 小林 聖	建築64回 橋本 文太
機械55回 渡辺 潤	工化32回 佐藤 健
土木26回 高橋 晃一	電気30回 中村 智
機械52回 宗像 康弘	機械29回 永田 直史



名刺交換レクチャー



第1回集合写真

校友起業家

株式会社あぶくまビール

代表取締役 渡辺 潤 (機械55回卒)



豊富なビールバリエーション



乙な駅たまかわ 外観



醸造施設及びタップルーム



オープン当日 協力者(左)と

静岡県富士市生まれ、日本大学三島高等学校、日本大学工学部機械工学科及び修士課程を卒業させていただきました。卒業後は大学院時代にインターンでお世話になっていた山形県の農業プラント開発の会社に10年間勤務しました。その後郡山市に戻りWeb関連の会社や自転車関係の会社などの立ち上げに携わる機会をいただき、自分がやりたいことで起業することを目指すようになりました。

2022年8月に福島県玉川村にてクラフトビールを製造販売する株式会社あぶくまビールを起業しました。起業する数年前から、昔は地ビールと言われていたクラフトビールの魅力に惹かれ、また私の地元静岡県ではクラフトビール醸造所やタップルーム(ビール専門バー)を備えた飲食店も盛んなことも知り、福島県でクラフトビールを楽しめる機会を提供する事業に取り組みたいと考えようになりました。

玉川村は大学時代に、お米の生産農家さんの田植えや稲刈りなど、農業体験をしていた縁もあり身近な地域でした。また数十年前まではホップの栽培が盛んだったことを知り、そして新産業創出の補助をなど行政の支援体制が充実していたこともあり、玉川村でクラフトビールをつくりたいという気持ちが固まりました。

クラフトビールの世界は着実に広がっており、国内ではクラフトビールブームと言われるような状態です。私たちあぶくまビールではブームでは終わらない、地域の文化になるような産業として根付くブルワリー(醸造施設)を目指しています。ホップ栽培の研究会を立ち上げ、村内でホップの栽培をさせていただける農家様への普及活動を推進しており、今後は大麦に関しても村内で栽培し“玉川村でしかないビール作り”にも取り組む予定です。

2024年9月、玉川村の入り口である阿武隈川にかかる乙字ヶ滝近くの畔に新たな交流施設として、日本を代表する建築家である隈研吾氏の設計による建物を「乙な駅たまかわ」としてリノベーションし、オープンしました。あぶくまビールでは施設内に醸造施設を新設し、併設するレストランやカフェと連携して「飲んで・食べて・買って」を楽しめる施設として同時オープン、お陰様で地元はもとより、遠方からのお客様からも好評をいただいております。

是非、校友の皆様にもご来店・ご利用いただけましたら幸いです。

合同会社武修堂

代表 池田 憲人 (情報10回卒)

この度、記事掲載のご依頼を頂きまして誠にありがとうございます。私は情報工学科第10回卒業の池田憲人と申します。

私は工学部卒業後、地元の物流企業に就職し、その後コンサルタント企業を最後に2024年4月に独立致しました。学生時代は剣道や居合道、社会人になってからは抜刀道に明け暮れ、様々なご縁があり、地元郡山で武道具及び日本刀を取り扱う専門店舗を開店させて頂く事となりました。

武道具に関しては、日本大学工学部体育会剣道部の大先輩が営んでいたお店をそのまま継承させて頂きつつ、私の専門分野である日本刀の取り扱いをプラスし、新装開店という形でオープンさせて頂きました。私の知る限りでは、東北の地に店舗型の日本刀専門店がなかったことと、私自身がYouTube「藁斬り抜刀齋」チャンネルにて日本刀について色々発信させて頂く中で、日本刀に関して視聴者様から色々な相談を頂くようになったこともあり店舗を構える決断を致しました。

日本刀と聞くと「危ない」「敷居が高そう」「怖い」等のイメージを持たれることが多々ありますが、日本の伝統文化である日本刀に多くの方に興味を持ってもらいたいという思いがあり、気軽に入れる武道具店に日本刀をプラスするという店舗に致しました。

現在日本には刀鍛冶が約百数十人程度しかおりませんが、その中で専業でやっているのは約2~3割と聞いております。現在刀鍛冶は国家資格となりましたが、その厳しい試験を通して国家資格を取ったところでそこから先もまた刀が売れるかどうかという厳しい現実があります。

刀鍛冶もそうですが、日本刀に携わる研師、白銀師、鞘師、塗師、柄巻師、彫師、金工師、鐺工師等すべての職人に同じことが言えます。日本刀に興味を持ってくれる方を増やす活動が、この伝統文化を守りつなげていくことになるのではないかと思います。

最近では武道人口も年々減少しており、特に学生の武道離れは顕著なものです。やはり武道も同じく日本の伝統文化のひとつですので、武道に興味を持ってくれる方を一人でも多く増やしていただけるような店舗にしていきたいと思っております。

是非校友の皆さまも、日本刀や武道の世界を感じに是非一度足をお運び頂けますと幸いです。乱筆乱文失礼致しました。



北海道支部

北海道札幌市豊平区美園11条5-2-9
 (株)横関工業内 ☎011-831-6851



●支部長

横関 一伸 (建築 25 回卒)

●今年度の活動結果

北海道支部では、前支部長の岡本繁美様(土 16) と長年事務局長をされていた、成田一稔様(土 15) が、ご逝去され、また私が、脳梗塞のため、総会は延期となりました。

されど、工科系 4 学部合同の桜工会が開かれ、工学部から、20 数名参加され、工

学部の支部活動の再開を誓い、城座会長からは、桜工会総会に合わせて、支部総会を行ってはその提案も受けました。後は、役員会を開き、活動について相談をしたいと思います。毎年の北海道からの工学部への入学者が少なく、卒業生が、北海道に帰ってくる人もなく北海道支部の存続も危ぶまれますが、現在の卒業生への連絡及び令和 7 年度は工学部北海道支部の同窓会総会及び懇親会に、地方支会の方々に参加できるように 4 月の第 3 週に行いたいと思います。

尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

北陸支部

新潟県新潟市秋葉区川口578-26
 (株)八重電業社内 ☎0250-22-3131



●役員

顧問	鈴木 隆 (建築14)
顧問	笠井 隆 (建築17)
顧問	岩名 涼 (土木22)
常勤顧問	山本 久 (土木31)
支部長	小川 邦之 (電気30)
事務局長	森山 良 (土木30)
事務局次長	本間 豊 (土木36)
幹事	小池 国義 (建築23)
幹事	田邊 篤 (電気20)
幹事	国原 重昭 (建築30)
幹事	頭川 弘 (土木31)
会計	小林 一成 (建築33)
事務局	山口 友巳 (土木38)
事務局	山川 研 (建築61)
事務局	長沼 宏武 (土木62)

●支部長

小川 邦之
 (電気 30 回卒)

今年度は、久しぶりに 2 名の若手役員が事務局として新規参入。

又、来期に向けて 2 名の役員が退き、新たに 1 名の新規役員が就任の予定。ここ数年で役員会も若返りを図りたい。

●今年度の活動結果

- 4/20 工学部校友会通常総会(小川支部長出席)
- 5/9 新潟桜門会「会員交流会」
 新潟グランドホテル(国原副支部長、田邊幹事出席)
- 5/18 第47回役員会 当年度通常総会の開催等について協議
- 7/6 新潟桜門会 総会 イタリア軒(小川支部長、田邊幹事、小林会計、岩名顧問出席)
- 7/27 工学部校友会北陸支部 第22回定期総会・懇親会
 新潟東映ホテル
 来賓 日本大学工学部校友会 城座会長 定時総会・懇親会参加者 34名
- 10/5 工学部校友会北陸支部 懇親ゴルフコンペ開催
 新津カントリークラブ 9名参加
 優勝 山本 久
- 11/1 商学部 新潟ビジネス研究会
 イタリア軒(田邊幹事出席)

11/25 大学・高校・官民連携事業推進事業 工学部手塚公裕准教授、永田進進学アドバイザー 出席
 (小川支部長、国原副支部長、田邊幹事、小林会計出席)

2025年 第48回役員会

2/1 ※日程調整中 当年度反省会(新年会)

●次年度抱負(若手校友参加へのアプローチ)

今年度同様、以下の会合・イベントを開催、出席の予定

1. 校友会本部等の交流
 - ①定時総会(懇親会)
 - ②工学部校友会通常総会
 - ③母校を訪ねる会 ※2024年度は参加無し
 - ④桜門会新潟県支部等との各種会合
2. 北陸支部の会合・懇親会等
 - ①役員会(定時総会打ち合わせ、会計報告)及び懇親会
 - ②懇親ゴルフコンペの開催
3. 若手会員の新役員招集
 2024年度に引き続き、若手校友会会員の新役員招集に注力し、校友会北陸支部の活性化を進めていきたい。若手主体の役員会により、各種行事や定時総会(懇親会)の充実や新たな同窓生の連携を図る。
4. 大学・高校・官民連携事業推進事業の推進
 意欲ある高校生を母校に進学させ、さらに卒業後は地元に戻り、地域活性化に貢献してもらうことを目的とし、今年初めて連携事業推進に向けてのキックオフ会が開催された。
 校友会北陸支部からは、会員企業として 4 名が参加し、課題や今後に向けての方向性について情報共有を図った。引き続き、より具体的な活動について協議を進めていきたい。
5. 本部からの援助金が減額されたことを受けて、今後校友会北陸支部の運営について工夫が必要。



関東支部

神奈川県横浜市港北区綱島上町1-1-4-822
☎045-546-2647



● 支部長
小林 啓一
(土木 20 回卒)

支部長
小林 啓一
(土木 20)
事務局長
松尾 清志
(土木 29)

東京都 校友会	会長 山本 健史 (建築 37) 事務局長 松崎 信一 (建築 29)
千葉県 校友会	会長 藍郷黎治郎 (土木 14) 事務局長 松尾 清志 (土木 29)
神奈川県 校友会	会長 早川 辰也 (土木 29) 事務局長 三枝 良彦 (土木 31)
栃木県 校友会	会長 星野 光利 (土木 33) 事務局長 篠崎 淳 (土木 36)
群馬県 校友会	連絡責任者 福井 清 (土木 14)
埼玉県 校友会	会長 永田正一郎 (土木 21) 幹事長 村井 健一 (土木 29)
茨城県 校友会	連絡責任者 宍戸 薫 (土木 13)
山梨県 校友会	連絡責任者 正木 徳栄 (土木 47)
長野県 校友会	会長 原 健二 (土木 22) 事務局長 綿貫 明 (土木 35)

関東支部の組織は、関東支部の下に1都8県（東京都、千葉県、神奈川県、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、山梨県、長野県）の校友会で構成されております。

●今年度の活動結果

今年度はコロナ明けの年となりましたので、6月に関東支部の総会を開催し、①活動報告・会計報告②各支部へ活動援助金の配布③校友会功労賞表彰（土木17回・盛武建二様）④懇親会を実施し、各県校友会役員との懇親を図りました。また、6月には埼玉県校友会総会、10月には栃木県校友会総会、並びに長野県校友会総会、11月には神奈川県校友会総会、2月には東京都校友会を開催し、校友間の懇親を図りました。今回、久々の開催となりました長野県校友会では本部より城座校友会会長と関東支部より小林支部長が参加して総勢14名で総会を行い、校友の親睦を深めました。

新春（2025年1月2・3日）には、我、日大が第101回箱根駅伝に参加いたしましたので、横浜市の高島町交差点で神奈川県校友会有志の参加により応援旗を掲げて応援致しました。今後、日大が箱根駅伝に参加の場合には校友皆様方の応援参加をお待ちしております。

●次年度抱負（若手校友参加へのアプローチ）

関東支部は毎年6月に関東支部総会を開催しております。

また、都県校友会は定期的に役員会、総会を開催しております。今年度は神奈川県校友会総会に於きまして役員若返りを計りました。次年度は、2～3県校友会で総会・懇親会を計画しておりますので、校友の絆を深めるため、校友皆様の参加をお願いいたします。特に若手校友の参加を心より歓迎いたします。



関東支部総会 (6月)



神奈川県総会 (11月)

●地域でのトピック

11月開催の神奈川県校友会総会に、今、大学生の間で話題の「学生起業」されました荻田 渥君（生命72回卒）が参加されました。彼は画像制作チーム、「アドバンスワン」の代表として、ご活躍されてますので紹介致します。全国の校友の皆様方、「アドバンスワン」をご支援宜しくお願いします。

荻田 渥(アドバンスワン)事業紹介

1.学歴と起業経緯

2024年3月、日本大学工学部生命応用化学科を卒業。在学中に休学期間を活用し、映像制作の分野で起業。

2.事業内容

企業様の集客および求人活動をSNSを用いて支援。企画、撮影、編集、SNS運用を一貫して行う。特にYouTube運用に強みを持つ。

3.主な実績

担当したYouTubeチャンネルの登録者総数は4,700万人超（2024年11月時点）。演者の個性を引き出す企画力と編集力に高い評価をいただいている。

4.自社コンテンツ運営

妻と共同で運営するSNSコンテンツの総フォロワー数は10万人以上。（ジャンルは美容系、考察系）

5.企業タイアップ

韓国コスメブランドとのタイアップでは、10日間で2,500個の販売を達成。

6.企業PRサポート

担当した企業様の実店舗数を約1年半で1店から5店へ拡大させる成果を上げる。

7.強み

SNSの特性を活かした効果的な企画・運用で、企業やブランドの魅力を最大限に引き出す。



日本大学工学部生命応用化学科を卒業。在学中に休学期間を活用し、映像制作の分野で起業。



制作作品例

東海支部

愛知県名古屋市中区栄4-6-25
川北電気工業(株) ☎052-251-7111(乾)



● 支部長
近藤 直幸 (土木 28 回卒)

●今年度の活動結果

校友の皆様方には、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。東海支部の令和6年度の活動は、コロナも5類になり少し落ち着いてきていることを考え5年ぶりに支部総会を令和6年7月19日に大学より浅里和茂学部長、本部より永田直史幹事長のご臨席を賜り開催いたしました。参加者は、今までの半分以下の20名程度ではありましたが、卒業回数

が一桁の大先輩にもご参加いただき「参加してよかった！楽しかったよ！！」とお言葉を頂き、参加者が少なくても開催すべきと考えた次第です。しかし、参加者が少ないことは、さみしい限りです。特に若い同窓の参加は、皆無です。私近藤も67歳、それが若い方になっております。なんとか魅力のある活動をして若い同窓を呼び込みたいと考えておりますが、なかなかよい知恵が見つかりません。同窓の皆様よりご指導いただくと幸いです。今年は、新年会を皮切りに色々魅力のある活動を多数行いたいと思っておりますので、東海地区に関係のある同窓の方々は、ご参加をお願いして支部活動の報告とさせていただきます。

東東海支部

静岡県焼津市本中根485-5
☎080-1626-6412(永田)



- **支部長**
酒井 浩行 (土木 36 回卒)
- **今年度の活動報告**
 - **インターンシップ・企業説明会 (8月)**
参加学生38名、企業・官公庁 (県市) 29名、校友会役員 (支部) 18名 計85名

- **高校生対象進学説明会『工学部IN静岡』(6月)**
島田工業高校で開催
OB校友高校教員・校友企業官公庁より18名、生徒保護者72名参加

- **次年度への抱負**
 - **インターンシップ、企業説明会の開催**
8月に県内企業、県庁、市役所校友の参加を得て、学生に対して実施する予定
 - **常任幹事会**
年間3～4回、幹事 (25名) の出席を得て、情報交換、行事立案を実施予定

四国支部

香川県高松市屋島西町1932-9
(株) 敷内建設内 ☎087-843-2233



- **役員**
 - 支部長 藪内 清二 (建築33)
※香川支会 会長兼任
 - 愛媛支会 久保 陽生 (土木34)
 - 徳島支会 藤原 賢治 (建築36)
 - 高知支会
 - 事務局長 松岡 慎哉 (建築37)

- **支部長**
藪内 清二 (建築 33 回卒)
- **今年度の活動結果**
四国支部総会を昨年と同じく8月24日に城座工学部校友会会長をお迎えして20名の出席で開催しました。

香川県校友会を4月4日に12名の出席で開催し、定例会である一本会は毎月第一木曜日に高松三越東側の居酒屋「はんぶん」で開催しておりますので校友皆様のご参加をお待ちしております。

- **次年度への抱負**
今年の総会に於いて支部長を平成 19 年より務められた

六車秀世さん (土木 16) から引き継ぎました。各県の校友会を開催できるように四国支部からアプローチするつもりです。若年の校友の掘り起こしは計っていますが、工学部への四国からの新規入学者がとても少なく、入職者もほとんど無いのでかなり勧誘が困難な状況となっています。



六車秀世 前支部長(前列右から3人目)、城座隆夫校友会会長 (前列左から3人目) 藪内清二 新支部長 (最後列左から3人目) を囲んで

九州支部

福岡県福岡市博多区板付4-6-33
(株) 北洋建設内 ☎092-589-0151(脇山)



- **役員**
 - 支部長 上田 勝 (土木28)
 - 副支部長 上村公仁隆 (建築28)
 - 事務局長 脇山 亨治 (建築29)
 - 会計 齊藤 正司 (建築36)

- **支部長**
上田 勝 (土木 28 回卒)
- **今年度の活動結果**
今年度、九州支部の活動といたしましては、毎月第三木曜日に行うアカシア会を休会なく続けながら10月25日の九州支部総会の開催という1年間でした。総会は校友会より城座会長にもおいで頂き、時間が足りないほど話が弾みました。今年も参加することができたと感謝し、1年に1度しか会わない校友や、毎月会っている校友とも杯を交わしながら無事開催できて良かったと思った次第です。

- **次年度抱負 (若手校友参加へのアプローチ)**
次年度に思うことは、もっと若い校友を誘わなければ、段々と先細りになってしまうという危機感があることです。九州から、工学部へ行く学生が減少している中、それでも郡山で学生時代を過ごしてきた若い校友をもっと誘って会を大きくし

ていかなければと思っています。去年も言った気がしますが総会案内に返事を出してくださる方を中心に掘り起こしをしていきたいと思っています。



九州支部総会



アカシア会



● **支部長**
横尾 聡
(建築 28 回卒)

● **支部構成**

- ・北海道支部
- ・福島支部
- ・青森支部
- ・静岡支部
- ・山形支部
- ・茨城支部
- ・新潟支部
- ・長野支部

● **役員名簿**

- 支部長 **横尾 聡** (建築28)
 相談役 **関根 敬次** (建築16)
 事務局長 **永田 進** (建築22)
 事務局長代行 **阿部 英敏** (工化33)
 常任幹事

- 久保田幸正 (建築19) 渡邊 秀雄 (機械20) 大澤 俊幸 (土木27) 豊島 隆幸 (電気27)
 伊藤 満 (建築30) 宮崎 拓也 (土木49) 田畑 剛 (建築52) 小林 邦之 (電電52)
 大石 祐太 (建築61) 紅林 達哉 (建築62) 千葉 健寛 (建築65) 安彦 宗哲 (機械65)
 中山 智博 (土木66) 吉村 恵太 (電電66) 山本 陽介 (電電67)

● **今年度の活動結果**

- ・各支部会を1～3月に開催

● **次年度抱負 (若手校友参加へのアプローチ)**

- ・オープンキャンパスへの参加
- ・学術研究報告会への積極的な参加
- ・活気ある入学者を推薦

令和7年度工学部校友会総会 (令和7年4月) を経て、新役員を選出
 令和7年度工学部入学試験 (推薦型) の結果、多くの校友教員の御努力・御協力により、合格者の6～7割が校友教員の在職校の在校生でありました。今後とも「母校に優秀な生徒を！」というスローガンの下、努力していきたいと思えます。

● **田村浩啓先生 哀悼「巨星、墜つ」**

長野県総合教育センター **小林 邦之** (電電52回卒)

昨年は史上最も暑い夏とよばれ、歴代1位の高温を記録しました。
 お盆を目前にした8月12日夜、私のスマホがなりました。前の職場の同僚からであり、何かと思ったら、衝撃的な情報「田村先生亡くなる」でした。今年お会いしていないものの何回か電話でお元気なお声を聞いていましたが、あまりに急な悲報に言葉が詰まったことを思い出します。それとともに大きな悲しみがやってきました。

私と田村先生との出会いは、県立工業高校に教員として採用され、その後の教員部会 (アカシア教育研究会) の活動の中で大先輩として紹介されました。このとき声をかけていただき言われた言葉は、「わが日本大学工学部を応援しなければならぬ。長野県にOBの教員を多く作らなければならない」と、あのいつもの威勢のいいはっきりとした声で話されました。私の心の中に大きく刻まれた言葉であります。その後、私と田村先生は専門こそ違いますが、いろいろとご指導いただくようになりました。

田村先生を一言でいえば「親方」でしょうか。後輩や生徒のために熱心に親身に相談にのってくれました。生徒たちの受験指導や採用試験においても面接練習や各種書類にも事細かに目を配っていただき、丁寧に時に厳しく、一方で、その言葉の端々には心温かい言葉が含まれていました。そして合格した時には自分のことのように喜び姿、そしてこれからの生活に対する厳しいお言葉を頂戴したことを思い出します。それは工学部においても同様で、「優秀な工業高校教員を育ててもらいたい」と常々お話しされていたことは言うまでもありません。

16日のお別れの会には、田村先生の人柄・人望を表すかのようにたくさんの生花、大勢の参列者が訪れ、駐車場はもちろぬ会場周辺の道路も大混雑でした。私たち後輩をここまで惹きつける先生を尊び、持たれた信念を引き継ごうと思えます。最後になりましたが、本当にありがとうございました。安らかにやすみください。

校友会 NEWS

校友会支援一覧 校友会では以下の支援を行っています。

支援項目	内 容	支援項目	内 容
入学記念品	新入生への記念品贈呈	キャンパス散歩ツアー	母校を訪ねる会参加者を対象にキャンパス散歩ツアーを実施
開講式 昼食支援	開講式に出席する新入生・父母への昼食代補助	校友茶会	母校を訪ねる会参加者を対象に校友茶会を開催
校友会奨学金	経済的困窮者を対象とした奨学金	学術研究会 支援	学術研究報告会で発表する校友への発表支援金 学術研究報告会場でのカフェコーナー設営
課外活動 支援金	サークルへの活動費支援	桜維持管理 費用	桜剪定のメンテナンス費用支援
北桜祭支援	北桜祭打ち上げ花火費用支援	卒業関連事業 支援	学位記授与式会場費及び卒業記念品への費用補助
就職支援	教員採用試験受験者への交通費補助	卒業発表後の 懇親会	卒業発表会後の懇親会費用支援
学協会補助	学協会に参加する大学院生への交通費補助	学生への 表彰	体育会・学文連・北桜祭・オープンキャンパス実行委員長を務めた学生への表彰
母校を訪ねる会	大学と協賛で母校を訪ねる会を開催		

寄付者ご芳名 寄付金を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。 **川辺 和洋 様** (機械14回)

第9回日大燃研（柳沼研）OBG会に参加して



堀越 進（工化31回卒）

この会は、3年ごとに行われていましたが、コロナウイルス感染症の影響で7年ぶりに福島県石川郡の母畑温泉（八幡屋）で会員家族を含め、総勢44名の参加で開催されました。また今回は、柳沼先生の米寿のお祝いも兼ねて盛大に行われました。まずは柳沼力夫先生（工化7回）、「米寿」おめでとうございます。

これだけ長い間、そしてこれだけの人が集まる会は、他にないのではないかと誇らしく思っています。これも柳沼先生の人徳と言ってしまえば簡単ですが、人を引き付ける魅力をたくさん持たれているんだなと感じています。宴会の中で昔のエピソードを各卒業年度別に発表する機会があ

りましたが、殆どがお酒を飲んだり旅行やキャンプ、スキーなど研究室の出来事以外のプライベートな時間を、学生のレベルに合わせて家族ぐるみでお付き合いして頂いた内容が大半を占めていました。その時には感じられませんでした。柳沼先生の心の広さを改めて強く感じる事ができました。また今回は、マジックショーとマジシャンのトークショーもあり、先生のお話しも相まって楽しくて時間が経つのを忘れてしまいそうでした。宴の結びに日本大学の校歌を合唱してお開きとなりましたが、久々に歌った校歌は当時の思い出が甦るとともに、年代の隔たりを越えて一体感があり、しみじみと感じました。

7年ぶりにお会いした柳沼先生は、想像していた以上にお変わりなくお元気な意味で驚きました。まだスキーもお酒も現役だし、健康管理もされているので、次は卒寿（90歳）、白寿（99歳）、百寿（100歳）のお祝いまでやろうという声がどこからともなく上がり、賛同しました。

私も64歳になりましたが、柳沼先生と二回り違いの子年という事もあり、お元気な先生にあやかって健康管理をして、仕事もOBG会も生涯現役を目指して盛り上げていきたいと思っています。最後になりますが、いつもながら会をまとめて頂いている幹事、事務局の方々に感謝申し上げます。

次回、柳沼先生をはじめ皆様にお会いできることを楽しみにしております。

日本大学工学部ボウリング同好会OB会実施報告

川上 秀樹（建築23回卒）

令和6年10月19日（土）、日本大学工学部ボウリング同好会OB会を、第3代（1966年入学）から第20代（1983年入学）までの17名、そして指導教員渡澤正典先生（建築14回）に参加して頂き、郡山市で開催しました。

平成30年に、東京都品川プリンスホテルボウリングセンターで17名が参加して開催、次回を2年後、母校を訪ね思い出を巡らせることができますよう、会場を郡山市で予定しましたが、翌年からのコロナ禍により開催を見送る年が続いていました。

ラウンドワンスタジアム郡山店で行なわれたボウリング大会は、12名と見学2名が参加して、往年の投球フォームを思い出させるような？点数を無視してのゲーム展開で、笑いが漏れる楽しいひとときでした。

宴会では、ボウリング大会の成績発表と豪華景品の贈呈があり、渡澤先生からは、同好会を引き受けた時の経緯（裏話）をして頂きました。

全国的なボウリング場閉鎖により廃部（1998年頃？）に至ったことは残念ですが、参加者全員から近況報告、諸先輩・後輩から各時代の「青春のこぼれ話」や、昨今のボウリング事情など話題は尽きず、時が経つのを忘れて思い出話に花が咲きました。

次回は、第3代主将辰巳俊一先輩（土木18回）在住の大坂開催に決まり、幹事長に、第20代主将佐野崇さん（工

化36回）を選出して閉会となりました。

ボウリング同好会に所属した方は、下記に入学年とメール先を連絡ください。

8代（1971年入学）川上秀樹

khideki@po15.lcv.ne.jp



2024年10月19日 ラウンドワン郡山店



2024年10月19日（郡山市にて）

哀悼 太田雄八郎元会長 令和6年11月ご逝去

第6代校友会会長 太田雄八郎氏の御霊に萬感の想いをこめて 衷心より哀悼の意を捧げます

第11代校友会会長 佐藤 光正 (機械9回卒)



故 太田雄八郎元会長 (土木3回卒)

あなたは、工学部校友会の結成に大変尽力なされました。昭和47年からは第6代の会長を務められて、地方支部の結成、会員管理の電算化など、今日の校友会活動の基礎となる事業を創設いたしました。

現在、工学部校友会は、会員数65,762名余を擁する大きな団体となり、校友会活動の範囲も、会員を対象とした事業に止まらず、在学生の勉学条件の向上や福祉、ならびに大学の教育研究面などにも微力ながら協力をしています。

これらが物語るように、あなたの慧眼と卓越した実績に今日を重ね感謝のこたばを申し上げます。

——太田先輩ありがとうございました—— 合掌

哀悼 加藤木研元会長 令和7年1月ご逝去

第12代校友会会長 加藤木研氏哀悼

第13代校友会会長 手塚 公敏 (土木16回卒)

加藤木研元会長のご逝去の報に接し、深い悲しみに包まれております。加藤木さんは工学部校友会の基盤の強化に尽力し、私が副会長時代には他学部校友会との交流にも一生懸命で、会合の終わりには一緒に飲み明かしたことも良い思い出です。常に校友の絆を大切に、数々の企画や活動を通じて私たちを結びつけてくださいました。その献身的なお姿は、私たち校友一人ひとりの心に刻まれています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。どうぞ安らかにお眠りください。



故 加藤木研元会長 (電気12回卒)

哀悼 古橋栄吉氏 令和6年12月ご逝去



故 古橋栄吉氏 (建築8回卒)

古橋栄吉氏哀悼

工学部校友会広報委員会 千代 貞雄 (工化30回卒)

古橋栄吉様の突然の訃報に、悲しみに胸がいっぱいです。古橋様は日本大学東北工業高校建築科(現日本大学東北高校)の教員を務められ、当時から高校・工学部の校舎や日本大学(本部他学部含む)の建物や多彩なモチーフの絵画を描かれ、多くの日本大学関連出版物を飾りました。工学部校友会出版物へも快く絵をご提供いただきました。古橋様のこれまでの献身的な活動に心より感謝し、安らかに永遠の眠りにつかれる事をお祈りいたします。



安達太良山と金山橋 古橋栄吉氏 描画

日本大学工学部が推進する産学官連携活動 その8

ロハス工学に関する近況報告



日本大学工学部
工学研究所長兼ロハス工学センター長
土木工学科 教授 岩城 一郎

はじめに

校友の皆さま、本年もよろしくお祈りします。

本年1月16日に令和7年工学部・東北高等学校教職員新年会同が行われ、そこで昨年、学・協会賞等を受賞した教員に対する表彰が行われました。今年は16名が表彰され、壇上に登り切れないほどの盛況となりました。工学部の研究レベルが確実に上がっていることを実感し、工学研究所長として大変うれしい新年を迎えました。今回の寄稿では、私の関わる工学部の研究プロジェクトの近況について、ご報告します。

ロハスの森「ホール」

この寄稿でもたびたび紹介させていただきましたが、2019年東日本台風により被災し、解体撤去を余儀なくされたロハスの家1号、2号、3号の跡地にロハス工学の新たな研究拠点として（仮称）ロハス工学センター棟の設置を検討してまいりました。それから5年近くが経った昨年5月26日に、学生や教職員から名称を公募し、ロハス工学センター運営委員会で慎重に議論を重ねた結果、ロハスの森「ホール」として、プレオープンを迎えることができました（写真参照）。この名称は、①ロハスの家群跡地周りに高い木々が立ち並び、森を想起する静穏な環境にあること、②そこに人の集まる場所「ホール」を創造しようと考えたこと、③このエリアには「ホール」にとどまらず、「ガーデン」（庭）、「スタジオ」（工房）などを順次整備していく連続性を持たせることから付けられました。当日は根本修克学部長のあいさつ、私からロハス工学の変遷とロハスの森「ホール」の建設に至った経緯、浦部智義教授より「ホール」のデザインコンセプト等について説明がなされました。マスコミにも多数お集まりいただき、ロハスの森「ホール」を広く周知する機会となりました。その後も、夏のオープンキャンパス、秋の北桜祭、ロハス工学シンポジウムなどにおいて、市民に内覧いただく機会を得て、徐々にロハスの森「ホール」の認知度が高まっているように感じます。ロハスの森「ホール」の詳細に



プレオープンの様子



ロハスの森「ホール」外観図

については工学部HP（<https://www.ce.nihon-u.ac.jp/newinfo/240618lohasuhall/>）を参照ください。

ロハスの森「ホール」は帽子（キャップ）のつばのように張り出した流線形の屋根に緑化を施した、斬新な外観を有しています（写真参照）。ホール内は縦ログ構法や小径材を用いた架構、広葉樹の家具による温かみのある空間を創出しており、建築の専門家からも高く評価されています。7月には名高い建築誌である「新建築」の横山圭編集長が本施設を訪れ、10月号に8ページの大変重厚な記事を掲載いただきました。（<https://japan-architect.co.jp/shop/shinkenchiku/sk-202410/>）

また、元日経アーキテクチャ編集長で画文家である宮沢洋氏も2023年12月に開催された工学部学術研究報告会特別講演の際に本施設を見学し、高く評価していただき、ふくしま建築探訪の三つ星建築の中で本施設のイラストを掲載いただきました。（<https://fukushima-https://fukushima-kenchikutanbou.jp/detail.html?no=230>）

これを機に、10月にはロハスの森「ホール」内で、パネル展『巡回ふくしま建築探訪展』も開催されました。

そして、12月には公益財団法人都市緑化機構の緑化技術コンクールにおいて環境大臣賞：緑化施設部門（日本大学工学部浦部智義研究室+ロハス工学センター・株式会社はりゅうウッドスタジオ・株式会社蔭山工務店・株式会社日比谷アメニス）を受賞しました。受賞理由は以下の通りです。「本作品は、LOHASを教育・研究のコンセプトとする地方大学構内の緑化施設です。屋上も含む水循環とそれを見える化したデザイン性の高い屋上緑化がなされています。養魚場で求められる水質管理、汚水処理対策を緑化、省エネルギー、CO₂対策に結び付け、連動という発想が高く評価されました。」（<https://urbangreen.or.jp/cfafforestation/af23-04>）

今後は、ロハスの森の外構として屋上緑化と池とそこに生息する魚を循環させた巨大なアクアポニックスを「ガーデン」として整備するとともに、工房棟「スタジオ」の建築などにも着手する予定です。そして、本施設が学生や教職員の集いの場となるだけでなく、校友の皆様や地域の皆様と工学部がつながる場として活用できればと考えています。

第12回ロハス工学シンポジウム

昨年11月2日、市民公開講座『第12回ロハス工学シンポジウム』が開催されました。コロナ禍が明け、本格的に市民公開講座と銘打った結果、多くの市民の方にも参加いただきました。「ロハス工学からロハス学への進化を目指して～ロハス工学の視点から考えるこれからの地域づくり～」をテーマに、工学以外を専門とする社会学、介護、医学などの有識者を招聘しての基調講演のほか、日本大学の他学部や各地で地域づくりを進めるキーパーソンと日本大学研究者との間でパネルディスカッションを行いました。詳細はHPをご参照ください。（<https://www.ce.nihon-u.ac.jp/newinfo/2024lohas-symposium/>）

冒頭、根本修克学部長の開会あいさつに続き、日本大

学兼板佳孝副学長（研究担当）・医学部教授より「日本大学の地域連携」に関する挨拶をいただきました。その後私から本シンポジウムの趣旨説明を行いました。基調講演では社会学を専門とする日本大学客員教授・元NHK解説委員後藤千恵氏より、自身が手掛ける「一般社団法人 天草1000年の人と土の営み」における、自然の力を引き出し、人の力を引き出す取り組みについて紹介いただきました。そして、書籍「ロハス工学」の内容を引用し、一極集中の時代から地域が多極化する時代へ、工業主体の文明から農工文明の時代へ、まさにロハス工学からロハス学への展開が求められていると話されました。続いて、鞆の浦・さくらホーム施設長羽田富美江氏より、施設の概要について紹介いただきました（写真参照）。年齢を重ねても障害があっても居場所となるまちづくりを目指し、介護・福祉事業を展開していること、利用者・職員・地域住民が互いに顔が見える距離感で、まち全体で見守る仕組みづくりを行っていること、次世代につなぐ取り組みとして、鞆こども園との連携、医療・教育機関との連携、就業事業所と子育て世代との連携を進めていることなどについて紹介いただきました。最後に、日本大学医学部岡田真広教授より、日本の遠隔医療の現状について講演いただきました。ここでは、ICTの発展により画像伝送による診断が可能になったことから、国内外いつでもどこでも遠隔画像診断ができるようになったこと、近年ではAIによる画像診断支援サービスも普及し、様々な遠隔画像診断センターも確立され、つながるツールとして遠隔画像診断が地域医療に大きな役割を果たしていることなどが示されました。

続いて、特定非営利活動法人たなぐら里山板橋キビタキの森副代表理事大塚孝義氏、鞆の浦・さくらホーム・お宿と集いの場燧治管理人羽田知世氏、葛尾村地域振興課地域づくり推進係経済産業省派遣杉本誠氏、国際関係学部国際総合政策学科准教授矢嶋敏朗准教授、日本大学工学部客員研究員浅野和香奈氏から、それぞれ、福島県棚倉町、広島県福山市鞆町、福島県葛尾村、静岡県三島市、福島県平田村をフィールドとした地域づくりについて話題提供がありました。その後、工学部建築学科浦部智義教授をコーディネータに、上述の話題提供者に加え私もパネリストに加わり、パネルディスカッションを行いました。活発な議論の結果、地域づくりにおいては、人と人、地域と地域をつなぐことが重要であるとの認識が共有されました。今回のシンポジウムは工学の枠を超えた初の試みでしたが、多くの方にロハス工学の今後の広がりを示すことができたのではと自負しています。本シンポジウムをきっかけに、工学部との連携により地域づくりを進めている福島県平田村および棚倉町と包括連携協定を締結する準備が進んでいます。



羽田富美江氏の基調講演

さらには、大塚孝義氏、後藤千恵氏、羽田富美江氏・知世氏と工学部のメンバーで「ロハス地域づくりネットワーク」を構成することが合意され、メンバー内の交流を通して、各地域の好例を他地域に展開する体制が整いました。今後は日本大学の工学部と他学部との連携も強化し、



浦部智義教授



(上列左から)
岩城 一郎 教授
浅野和香奈 客員研究員
矢嶋 敏朗 准教授

(下列左から)
杉本 誠 氏
羽田 知世 氏
大塚 孝義 氏

全国有数の総合大学である日本大学のスケールメリットを生かした連携体制へとつなげていければと考えています。

おわりに

最後に、私事で恐縮ですが、令和5年度日本大学リサーチアワード（受託・共同研究費部門）を受賞しました。この賞は日本大学に在籍する約2500人の研究者のうち、最も多くの受託・共同研究費を獲得した者に授与されるものです。私は学協会の賞にはあまり頓着がない方と思っていますが、この賞にはこだわりがあり、いつかは取りたいと思っていました。その理由は、郡山であっても、工学部であっても、さらには土木工学であってもこの賞を受賞できることを示したかったからです。ご存じの通り、日本大学はそのキャンパスのほとんどが東京およびその近郊にあり、郡山キャンパスは最北に位置します。また、理工学部、生産工学部、工学部という序列で押し量られてしまうことが多く、中でも土木工学分野は研究費の獲得が難しいとされてきました。そのような中、多様な学生の対応や研究以外の雑務が多く、研究に避ける時間が少ないと吐露する研究者の声をたびたび聞いてきました。こうした現状に対し、研究のやり方を工夫すれば可能性が広がることを体現したかったのです。具体的には、本学部の学生の特性である粘り強く実直に信頼性の高いデータを取得する能力を最大限に生かし、広大なキャンパス内で都会にはできない研究テーマを見出し、成果を社会実装する。こうした研究を繰り返すことで、国や企業からの信頼を勝ち取り、好循環を生むというものです。最も大切なことは研究に対するパッションを失わないことに他なりません。このようなモチベーションを持ちつつ、ロハス工学に根差した研究を継続していけば、決して他学部にはひけをとらないのです。

本年も工学研究所長ならびにロハス工学センター長として、工学部の研究の発展、ひいてはロハス工学からロハス学への広がりに微力ながら尽力する所存でありますので、校友の皆様方におかれましてはご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

校友レポート



「教育」こそが 貧しさを救う

株式会社イシカワ 代表取締役
石川 幸夫 (土木 18 回卒)

同窓生の皆様こんにちは。私は仕事の傍ら、私が代表をしている「世界のめぐまれない地域に学校を作る会」により、世界の貧しい地域に学校の校舎を中心に、診療所、教育施設、井戸、便所等を寄贈して参りました。

最初は単なる思い付きから始まったこの事業が、29 年間続いたのは、各国で学校を作った時の子供達、そして地元の人達が喜んでくれる姿に感動したからです。そして、「教育」こそが貧しさを救うであろうと云う希望にも似た信念がありました。

貧しい人達を救うのは、まずは食料品、衣料品、医療品であり、それ等を求める為のお金であることとは明確な事実です。しかしそれ等は一時的なもので、その先はまた救いようのない困窮が続くのです。

貧困を解決できるのは、やはり自分達でその貧困から抜け出る自助努力が必要で、その為には何より正しい教育が必要であると思ひ、この事業を続けて参りました。

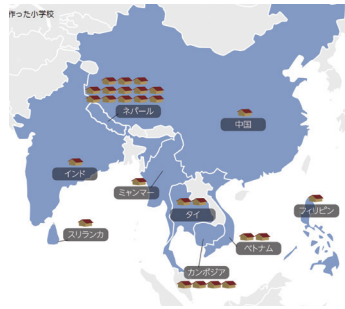
学校を作ることで、微力ながら正しい教育につながり、やがて少しでもその周りから知恵が生まれ、少しずつでも国が豊かになることに期待しております。

考えてみると、資本主義経済は、現在、グローバル化の中で、世界の貧しい人達の上に豊かさが成り立っているのではないかと思うのです。例えば衣類等は、カンボジア、バングラデッシュ等の安い労働賃金で、安い商品が次々と生まれ、日本では年間 52 億着の衣類が売られ、その内の 50% が焼却処分されており、更にそのことが地球環境を壊し、地球温暖化を進め気候変動を起こし海水温度を上げ、そこから更に大量の水蒸気が発生し、観測史上の記録が続々と塗り替えられるような大量の雨となり洪水を起こし、途上国にも自然災害を起こしているのです。

理想から云えば、貧しい国々を救うと云うことは、本来自分達の豊かさがある程度犠牲にしても、それ等の国々を豊かにするために何をするかと云うことが必要で、私達の欲望を抑えて、地球の資源と環境問題を考えて、その枠の



カンボジアで小学校建設



今まで作った小学校

中で途上国の経済が成り立つような考えが必要であると思うのです。

拡大する欲望、他者を利用し豊かさを築く資本主義の構造そのものが、今問われているように思います。

私達が小学校を作った 20 年前の中国と、現

在の中国は様変わりしています。

中国は、日本の ODA も含め世界から「貧困」を解決する為に助けられていた国だったのです。それが豊かになると、次は他の国々を経済的に「搾取」する政策をとる国に変わって来たのです。その為に軍事力を使い他の国々を「威嚇」する国になったのです。救った人達が救われた時点で、今度は人の富を奪うと云う人達に変わっていくのです。それ等はしかし、今のアメリカ、日本にも通用するのでしょうか。

SDGs と唱えながら、実はその裏で逆の破滅を招くようなことを行っているのではないのでしょうか。

人を救うと云うことは、自分の豊かさを犠牲にする覚悟が必要であると思ひます。

どこかで欲望を止める社会を作る為の正しい教育を、今こそ世界中の人達が学ばなければ、人類はそう遠くない将来に滅ぶと思うのです。そして私も、一人の人間として、心のどこかで、これと反した日常を送る自分を、恥ずかしいと感じているのも事実です。

しかしながら、どのような形であっても学校ができるということは良いことではないかとも思うのです。

これからも生涯、世界の恵まれない地域に小学校を作りたいと決心をしております。

同窓生の皆様も、仕事を通して、あるいはボランティアで、これまで様々な立派な活動をされてきたことであらうでしょう。

今回は、同窓会報の中で、私の拙いボランティアを紹介致しました。

結びに、母校と学校関係の皆様、同窓生の皆様の益々の御発展を心より御祈り申し上げます。



子ども達と一緒に

校友レポート



ゴーゴーカレーで 世界に元気を届ける！

株式会社ゴーゴーカレーグループ代表取締役社長
西畑 誠 (工化 44 回卒)

本会報誌でご挨拶をする機会をいただきまして大変光栄です。2023年3月に、株式会社ゴーゴーカレーグループ(以下ゴーゴーカレー)のCEO兼代表取締役社長に就任しました西畑誠です。「金沢カレーブーム」の火付け役と呼ばれるゴーゴーカレーは、石川県金沢発祥のカレーチェーンで、03年に創立され、04年に新宿に1号店、07年に米ニューヨークのタイムズスクエアに初出店しました。M&A(合併・買収)や事業承継にも力を入れ、金沢の老舗インドカレー店「ホットハウス」や金沢カレーの元祖「ターバンカレー」など、多様なブランドを持つ「カレーの専門商社」として事業を拡大してきました。

私の経歴の振り返りですが、1996年に日本大学工学部工業化学科を卒業し、その後渡米しMBA(経営学修士)を修了しました。96年に米シアトルに留学したのですが、当時は地元企業のマイクロソフトが「ウィンドウズ95」を発売した翌年で、そして同じくシアトル発のベンチャーだったアマゾンが本格的に事業をスタートし、急成長している頃でした。両社の社員が私と同じクラスでMBAの授業を受けていて、彼らと会社やビジネスについて直接話して大いに刺激を受けました。さっそく自分のパソコンを購入してネットに接続し、これからのインターネットビジネスの可能性を強く感じた記憶があります。

99年に帰国後は、ヤフー、アップル、グーグル、メルカリにて、それぞれの成長期に参画し、21年からは米国フードデリバリー最大手のドアダッシュで日本の経営メンバーとして加わり、翌年買収したウォルトに転籍し事業拡大に携わりました。これらのテック企業のようにゴーゴーカレーを急成長させて欲しいと、創業者宮森宏和さんからの誘いを受け、23年1月にゴーゴーカレーに入社し、3月にCEO兼代表取締役社長に就任しました。日本大学工学部に在学中はインターネットが今のように普及しておらず触ったこともなかった私ですが、卒業直後にインター



ゴーゴーカレー 金沢本店

ネットビジネス最前線のシアトルにて実際に活躍する方々から直接刺激を受けることができ、帰国後に私自身も各グローバルテック企業にて20年以上働くことができ、今に繋がる大変貴重な経験ができたと思います。



人気メニューロースカツカレー

現在ゴーゴーカレーは、国内外に約100店舗を展開中で、日本大学工学部のキャンパスがある福島県郡山市にも店舗があります(伝説のすた井屋・ゴーゴーカレー郡山安積店)。また全国の大手レストランや学食・社食等では当社監修の金沢カレーが提供される機会が多く、日本大学工学部キャンパス内のレストランでも当社監修の金沢カレーを提供頂いています。

海外ではアメリカとインドネシアに店舗があり、直近では昨年9月20日に米ハワイ州ホノルルに店舗がオープンし、またインドネシアでは14店舗目が昨年12月にオープンしました。今後さらに米国やインドネシア国内、またその周りの国々や欧州にもビジネスを拡大していく予定です。

店舗以外でも当社製品は全国のスーパーや大手オンラインショッピングサイトでも取り扱って頂いておりますので、お近くに店舗がない方々はそちらでお求め頂きご賞味頂けますと幸いです。

1号店がオープンして20年が経ち、2023年3月からは私がCEOに就任して経営体制は変わりましたが、カレーで「世界に元気を届ける!!」というわれわれの普遍的なミッションは変わっていません。また、昨年石川県能登地方で発生した地震や豪雨の被災地にも元気を届けるため、「能登半島地震・豪雨復興ゴーゴープロジェクト」を継続しています。今まで築いてきたゴーゴーカレーのブランドや商品の良さを引き継ぎ、ここからあらためて世界一のカレーの専門商社を目指していきます。全国でご活躍されている日本大学工学部出身の皆様の応援を各地にて頂けますと幸いです。

校友レポート



地方政治34年 あしよろちよう —北の大地・足寄町

足寄町議会議員 矢野利恵子 (電気26回卒)

私は3人兄弟の長女として生まれ普通の顔なのに、ルックスが良い2級下の弟と3級下の妹らと、3人並ぶとブスになってしまうという環境で育ちました。単にモテなかっただけという事もありますが、容姿に自信がもてずに現在も独身です。他にも掃除や料理など家庭的なことが苦手で、それを心配した親が勧めてくれた栄養士免許が取得できる短期大学へ地元の足寄高等学校卒業後進学しました。しかし短大卒業後、自分の勉強したい大学に行きたいと考え、自宅で1年勉強し、工学部電気工学科へ入学しました。そして政治家の鈴木宗男さんや歌手の松山千春さんの出身地でもある足寄に戻り「矢野学習塾」を開業しました。父親は山や川で採集した十勝石(黒曜石)、縞石、ジャスパーなどを切って磨いて売る仕事をしながら、町議会議員をされており、選挙時にはウグイス嬢として私も選挙カーに乗り手伝っていました。父は8期目71才で引退し、私は38歳で父の後を継ぎ町議会議員選挙に立候補しました。その時、父の入っていた党では後継候補も立候補しており、父は両方応援することはできないと、私に投票をしてから選挙期間中は東北の温泉へ、湯治に出かけてしまいました。

私は父名義の宅地を賃貸したり、貸家業や衣料品の月賦販売をしたりしていた母と二人で近所の人達の助けを借りて、選挙を乗り切りました。選挙をお手伝いいただいた町内会の方々は東京出身で社交的だった母が声をかけ、そのほかには矢野学習塾の卒業生やその友人達が手伝ってくれました。21人中5位で当選し、足寄町では初めての女性議員でした。この選挙の1年前、町内会の花見の席の事です。みんなでジンギスカンを食べていた時、高齢のため農家を引退して同じ町内に移り住んでいた近所の方から選挙カーに乗って選挙を手伝ってくれと言われ、私と母はとても喜んで協力してもらいました。そして楽しく選挙が終わり、選挙後に知らされたその人のただ1つの頼みたい事というのが、地元国会議員の後援会に入会してほしいというもので、私は入会しました。後援会の集まりに参加しているうちに、当時の後援会会長から代議士の奥さんが新盆まいりをする時、奥さんと同行してくれる女の人がいなくて困っている、何とかお願いしますと頼まれて、同行する事になりました。その後、亡き夫の後を継いで国会議員になった奥さんの選挙も手伝うことになります。

思い起こすのは、私の町長選挙3回目の落選の時です。その時、先輩校友の佐藤勉代議士(土木23回)と選挙を手伝った代議士のお二人が、私の応援演説に来ていただけるという予定でした。あいさつまわりに頑張っていた時、残念ながらお二人とも来れないとの連絡があり、代わり



に佐藤勉衆議院議員を紹介していただいた永田進先輩(建築22回)が、札幌から300km離れた足寄まで応援演説に来てくれました。永田先輩は工学部校友会50周年記念誌に大学時代の思い出話を書いてほしいと連絡をしてくれた方です。連絡をいただいた当時は札幌の大学の教授をされていた。町民センターでの演説では「さすが教授、演説がうまい。」と選挙対策担当からの感想に、次の選挙にも応援に来ていただけるということでしたが、次の選挙は4回目の落選で、その次は直近2023年4月の選挙です。4回落ちるのも5回落ちるのも同じだろうと言われましたが、さすがに5回目の落選に対して躊躇するものがあつたので、定数ちょうどで無投票と予想され、定員が13人に減っていた町議会議員選挙に出馬し、無投票で現在5期目の議員生活をしています。議員職のほかに道の駅などに「あしよるかシスサイダー」と「あしよるラズベリースカッシュ」も卸しています。

失敗にめげずに突き進むのが、日本大学工学部の良いところだと思っています。工学部出身で活躍されている校友は数多くいらっしゃいます。道東の拠点校である釧路工業高校の池原智宏校長(建築38回)もそのお一人です。しかし池原校長の恩師であり教育界で活躍されて強い母校愛をもっておられた高崎格先生(建築14回)や帯広工業高校に勤務されていた行場義修先生(建築30回)がすでにお亡くなりになってしまったことは、かえすがえす残念です。工学部で多くの友人ができ、日本大学工学部に入って人生が開けた一人だと思っています。私の好きな広い敷地ときれいな桜の木の日本大学工学部の発展を北の大地より願っています。



若葉マーク 頑張り記



市職員として 市制施行100周年を迎えて

郡山市建設部道路建設課 技師

折笠 聡哉 (土木 70 回卒)

私は平成 30 年度に日本大学工学部土木工学科に入学しました。気の合う友人もでき、順調な学生生活でしたが、翌年の令和元年台風 19 号で大学構内も浸水しました。その経験から水害対策に興味を抱き、卒業研究では堤防決壊における河道特性の影響について研究しました。同テーマについて多角的に研究したいという思いから本大学の大学院に進学し、修士研究と並行して就職活動に取り組みました。

就職活動をする中で、研究室で学んだことを生かして地元である郡山市の防災・減災に貢献したいという思いが強くなり、郡山市役所に土木職の職員として入庁しました。

最初の配属は建設部道路建設課の生活道路係であり、生活道路改良舗装事業に携わっています。この事業は、狭隘な集落等の道路を拡幅する道路改良工事と、未舗装の道路を舗装する舗装新設工事に大別されます。

私が初めて監督員として担当した工事は、熱海町の舗装新設工事でした。CAD の操作や積算方法についても覚えのない状況でしたが、先輩方の丁寧な御指導のおかげで、図面や積

算書等の設計図書が無事完成しました。綺麗に舗装され無事に竣工することができ、自ら設計した道路が完成した喜びと大きな達成感を得ました。

道路改良工事では、境界確認測量、測量実施設計、分筆測量(用地買収)を経て、工事着手に至ります。比較的軽易な路線からではありますが、入庁 1 年目から計画段階から工事に至る全ての工程に携わることができ、とてもやりがいを感じています。

郡山市は今年で市制施行 100 周年を迎えました。道路や橋梁、上下水道などの公共施設を普段何気なく利用していましたが、100 年を経て今日の郡山市が形成されていることに思いを馳せ、先輩職員への尊敬と、郡山市の土木技術者として不断の努力が必要であると身が引き締まる思いです。

いくつかの工事を監督する中で、先輩職員の「現場は生き物」という言葉がとても印象的でした。設計書通りに進む工事ばかりではなく、現場を進めるうちに予期せぬ事態が生じる場合もあり、その都度迅速かつ適切に処理しなければなりません。失敗から学ぶこともありますが、上司からの「チームワークを大切に」という言葉を意識し、郡山市の職員の一人としてこれからの未来に向けたまちづくりに貢献できるよう成長していきたいと思えます。



学術研究報告会

学術研究報告会に参加して

株式会社セイコン

米田 稔 (工化 30 回卒)



電気電子工学部会にて報告

第 2 回ニュービジネスプランコンテストにおいて優秀賞を受賞しました。現在は企業でシミュレーションと実証実験データを活用し落雷に関する研究を行っています。

避雷針においては様々な分野が関係しています。工学部の学科にたとえてみると、規格は建築学科、原理は電気電子工学科、製造は機械工学科、材質は生命応用化学科、これから特に必要とされる分野は情報工学科です。1 つの分野だけでは有効な技術として力を発揮するのが難しいですが、様々な分野の技術が結びつくことによって有効な技術になると思えます。

今回、参加を決めたのは、私の研究する「落雷を発生させない避雷針」について一般的には、あまり知られていない技術であり、もっと広く知ってもらうため、校友の勧めもあったからでした。

報告を終えて、振り返ってみると、とても刺激的で楽しい時間を過ごせたという思いでした。知識や経験が豊富な先生方の質問は普段では得られないような視点や深い洞察をもたらしてくれ、私自身が抱いていた疑問や視点について新たなヒントを得ることができ、考え方を広げる良い機会となりました。

ものづくりは、異部門の連携が大切だと思います。企業のみでは、業務に追われていて研究開発に携わる時間を作るのが難しいのが現状です。大学の研究者の方の協力や研究施設を活用させていただくことで、自社だけでは実現が難しい高度な研究開発が進められると思います。一方、大学側も企業からの資金や実践的なフィードバックを得られれば、研究を深化させることができるのではないのでしょうか。

落雷を発生させない避雷針の施工に当たっては、当たり前のことですが原理に則った設計・製造・施工をしないと期待した効果が発揮できないこともあります。

次回は、実例を交えながら「落雷を発生させない避雷針を効果的に使うには」を報告したいと思います。

日本大学工学部校友会会員各位

令和7年3月1日
校友会会長 城座 隆夫

令和7年度 通常総会通知

本会会則第11条により、日本大学工学部校友会令和7年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、御通知申し上げます。

1. 日 時／令和7年4月19日(土) 13時より
2. 場 所／日本大学工学部 50周年記念館 3階
3. 議 題／(1) 令和6年度会務報告および決算報告
(2) 令和7年度事業計画および予算審議
(3) その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催



※但し、変更等が生じた場合はホームページに掲載または事務局にて対応致します。

第42回 母校を訪ねる会

開催日／令和7年(2025年)10月26日(日)

場 所／日本大学工学部 50周年記念館を予定

対 象／第13回卒(昭和40年3月卒) 第43回卒(平成7年3月卒)

第18回卒(昭和45年3月卒) 第53回卒・情報第9回卒(平成17年3月卒)

第23回卒(昭和50年3月卒) 第63回卒・情報第19回卒(平成27年3月卒)

第33回卒(昭和60年3月卒)

大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第75回北桜祭も開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報下さい。できる限り応援致します。

※対象学年の皆様には改めてご案内状を発送(8月中旬予定)させていただきます。また、対象学年に関わらずご参加いただくこともできますので、ご希望の方は校友会にご連絡下さい。

住所変更について

転居、転職の際は校友会事務局までご一報をお願いします。「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて随時承っております。

写真部



大学写真部(白石滯莉部長)の皆様より表紙・裏表紙の写真を提供していただきました。発行に際しご協力いただきましたすべての皆様に対し、広報委員会より感謝申し上げます。

校友会報 第88号

発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
URL : <https://www.nichidai-ce-koyukai.com>

発行部数 12,500部

発行日 令和7年3月1日

発行責任者 校友会会長 城座 隆夫

編集責任者 広報委員長 千代 貞雄